

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870600719
法人名	株式会社 ジェイコム
事業所名	グループホーム まなべ
所在地	西条市氷見乙769番地
自己評価作成日	平成21年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 1 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・下肢筋力の低下を防ぐことができるような取り組みを毎日行っている。
 ・天気の良い日には屋外へ出て散歩をしたり、椅子に腰掛けおしゃべりしたりと、外での活動に重点を置いている。
 ・梅やさくら、ふじ、ぼたん、つつじ、あじさい、菊などの花を見物に車で外出している。また、ブドウ狩りや柿狩りにも出かけている。
 ・庭の花壇に花を植えたり、野菜作りに精出している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者に毎日フットケア(足浴・マッサージ)を行い、その後天気の良い日は毎日のようにホームの庭にイスを出して日向ぼっこ、体操、おしゃべり等を楽しめるよう支援している。このような積み重ねが利用者の健康状態に良い効果をもたらし、風邪をひく利用者もほとんどいない。ホーム内はどこも掃除が行き届いていて清潔である。管理者は、職員の自主的な取り組みや業務に対する姿勢を高く評価している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム まなべ

(ユニット名) 1階 フロアー

記入者(管理者)

氏名 中原 千加子

評価完了日 平成21年12月15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 利用者個々が自立した生活が送れるよう支援する。地域社会との交流に務める。等の理念を職員の目に付くフロアーや名札の裏に掲げ、常に意識できるようにしている。また、理念を具体化した月間目標を立て、実践に努めている。</p> <p>(外部評価) 理念を基に、ユニット毎で更にケアに結びつけやすい具体的な目標（例えば「見守り強化」等）を職員皆で話し合っ決めていく。2～3か月ごとに見直しを行い、次の目標を立てている。理念や目標は名札の裏や目につく場所に掲げて共有している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 運営推進会議を通じて地域の方々の施設に対する理解と交流が深まっている。道で出会うと必ず声掛けをしてくれるし、自治会長はホームの畑の指導をしてくれている。季節の野菜なども差し入れてくれる。自治会の清掃には職員が参加し、地域の一員として認められるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 地域の方とは日常的に挨拶を交わし、またボランティアで体操や畑作りを教えてもらったり、時には野菜や花等を差し入れてもらっている。地域の秋祭りに参加したり、自治会の草引きに職員が出向いたり、中学生の研修を受け入れたり、小学校の廃品回収に協力するなど、地域との交流を深めるよう熱心に取り組んでいる。以前隣家が火災に遭った時に炊き出しを行ったこともある。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 利用者の事が精一杯で、地域へ向けての発信はできていない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では利用者の状況や職員に関すること、 サービス実施状況などを報告し、意見やアドバイスな どをもらっている。会の報告は職員にし、サービス向 上に活かしている。	
			(外部評価) 利用者、職員の活動内容や状況、自己及び外部評価の 説明等、オープンな形でわかりやすく報告している。 活発な意見交換があり、行方不明者検索マニュアルの 作成においては、会議でのアドバイスを取り入れている。 自治会長の声かけもあり、地域から様々な立場の方 が参加してくれている。議事録は家族にも届けてい る。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 介護相談員、行政職員、事業所職員で構成される西条 市サービス向上連絡会に出席し、研修や事業所の取り 組みなど意見交換を行いサービスの向上につなげてい る。市からの調査やアンケートには積極的に協力し、 よい関係が築けるよう努めている。	
			(外部評価) 市の担当者は運営推進会議に参加し、また近くに来た からと立ち寄っては様子を見てくれている。ホームか ら連絡して相談したり情報を得るなど、協力関係を 築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修やミーティングで身体拘束について話し合うこと により職員の意識を喚起している。職員は日々の介護 の中で、どのような行為が拘束になるか、お互いに常 に点検し合っている。	
			(外部評価) 毎年度初めには拘束・尊厳・倫理等について研修を行 い、心身のダメージや社会的に認められないこと等を 再認識している。毎月の勉強会の中でも「これは拘束 にならないか、どのようにすれば良いか」といった内 容を話し合い、問題意識を持って取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 会社全体で高齢者虐待防止法について学び、どのような行為が虐待に当たるか理解している。日々の介護はストレスが多く、何気ない言葉が利用者の心に傷を負わせていないか職員は自己点検に心がけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 数名の者が研修に参加し学習しているが、全職員が十分理解できているとは言えない。また、研修を受けている者も理解は不十分である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には不安な点や疑問点をだしてもらい、十分な説明を行っている。また、利用料金改定や介護報酬の改定加算等を算定する場合は、説明会を開催し、十分説明を行い理解していただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 介護相談員さんが、毎月の訪問時に利用者様の意見や要望を聞き、職員にそれをつないでくれている。家族の意見や要望は本音が出せないところもあるので、何気ない会話の中からそれをくみ取るように努めている。 (外部評価) 利用者に常に寄り添い、会話・表情・動作などから読み取っている。家族の思いは訪問時の会話の中から汲み取り、また毎月のホーム便り、運営推進会議録、アンケート等の反応からも把握して、運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のユニット会や日々の申し送りの中で意見を聞くように努めてはいるが、なかなか本音の部分は聞き出せていない。発展性のあるよい提案は代表者も管理者も聞く姿勢は持っている。 (外部評価) 毎月のユニット会で、利用者の状況に合わせたケアや業務に関する意見や提案を話し合っている。代表者や管理者はその意見等を検討して運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 今年4月よりの給与体系改定で、資格や個々の仕事内容により、努力が評価されるようになった。研修を介護に活かしたり、資格取得を目指して勉強したり、各自が向上心を持って働けるようになった。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 経験年数や習熟度に応じて研修計画が立てられ、職員は順次学ぶ機会が与えられている。研修後は報告書を提出し、研修報告会で学んだこと発表するようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会が開催する相互研修に参加し互いに訪問し学ぶことにより、啓発されサービス向上につながっている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居が決まるまで本人と面接する機会はほとんど無いが利用開始時には、時間をかけて訴えを聴いたり、こえかけや側に寄り添うなど本人との関わりの時間を多く持つように心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 困っていることや不安など家族の訴えを傾聴するよう心がけている。家族の気持ちにより添い家族のどのような気持ちも受け入れようと努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 何事も無理強いせず、緩やかに穏やかに自然に周りの雰囲気にとけ込めるよう対応している。自宅や病院でリハビリのサービスを受けていた方は継続してそれが受けられるよう配慮している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にもかかわらず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者様と一緒に調理や畑仕事を行い、共に暮らす仲間としてそれぞれの役割を担い、助けられたり助けたりの関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にもかかわらず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員は家族を利用者様を支えるよきパートナーだと思っている。特に困ったときや介護に悩むときは家族の力を借りている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者に関わりのあった人や場所から切り離すつもりはないが、交流のあった方々も高齢であったり亡くなったりでだんだん大切な関係が途絶えてくる。相手のあることなので支援が難しいところがあるように思われる。 (外部評価) 近所に住んでいた友人の訪問があったり、通りがかりに声を掛けてくれる方もいる。孫が成人式の晴れ着姿で訪ねてくれたり、家族と墓参り・葬式・法事等で出かけることもある。秋祭りには利用者の馴染みのだんじりがホームに来て、共に楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が利用者間でトラブルが起きないように、また、嫌な感情が残らないよう見守りや調整等を行っている。外出時は車椅子の利用者を他の利用者が押してくれたりする場面も見られる。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院された方のお見舞いには度々出かけている。また自宅に帰られた方には電話で様子を聞いたりしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の少しの状態変化にも気づき、困っていることは何か、望んでいることは何かを把握するように努めている。願いを叶えられることもあるが、自宅へ帰りたいという思いはどのように受け止めればよいか日々悩むところである。 (外部評価) 日々の関わりの中で寄り添って話を聞くよう心がけ、会話・表情・動作の中から利用者の思いを見極めるよう努めている。中でも入浴時は対一のケアになるためゆっくりと会話できる貴重な時間となっており、気づくことも多い。気づいたことや把握した情報は職員全員で話し合い、共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時、利用者・家族の生活歴や仕事・趣味など失礼にならないよう気を付けながら、情報をいただいている。また、介護支援専門員からも情報を得、本人をより深く理解するよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの一日の暮らし方や生活リズムはおおよそ把握している。が、本人の有する力はまだまだ十分に把握ができていないので、何でもとりあえず声掛けをしてやっていただくことにしている。できないと決めつけないように気を付けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 毎月のケースカンファレンスにおいて、利用者様の現状や本人の希望することなどを話し合い介護計画を作成している。アセスメントをして具体的な介護計画を立て、実施、モニタリングしよりよい介護を目指している。</p> <p>(外部評価) 毎月のケア会議で気づきや意見を職員全員で出し合っ て介護計画を作成している。ふりかえりは毎月行い、 利用者の状況に変化がなくても3か月ごとに計画の見 直しを行っている。状態に変化があったり必要時には その都度見直している。介護計画と毎日のケアや個人 記録に関連性を持たせる工夫がなされている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別の生活記録に毎日の状態を記録し介護計画の見直しに役立てている。また、ごく些細なことでも申し送り で伝えたり、申し送りノートに書くなどして情報の共有に努めている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 家族に代わり受診介助したり、入退院の送迎など柔軟に対応している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 自治会や老人会、民生委員、地域のボランティアとは特に関係が深く事業所を支えてくれる応援団である。またタクシーや商店は行方不明捜索時に力を貸してくれたりした。地域の方々によってホームの暮らしが支えられていることを実感している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>殆どの利用者が事業所の協力医療機関の医師ををかかりつけ医としている。特別な疾患のある利用者はその疾患に対してのかかりつけ医を持ち家族が受診介助している。協力医療機関にない診療科目は家族と相談し、職員が受診介助している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ほとんどの利用者が協力医療機関の医師をかかりつけ医としている。月1回の往診があり、協力医療機関の受診は職員が対応している。専門医の受診は家族が付き添っているが、状況に応じて職員が同行することもある。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>看護職員が配置されており、日々の状態把握や体調変化に気を配っている。必要であれば主治医と相談し受診介助している。また介護職員も利用者の状態の変化に早く気づくよう看護の知識や技術の習得に励んでいる。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <p>入退院時は主治医を始め病院関係者や家族、施設管理者と情報交換を行い、本人にとって何が一番よいか話し合っている。病院関係者とは利用者様の状態について常に相談しているのでよい関係が築けており、入院になっても困る事はない。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>家族は施設で最期まで見てほしいという希望は持っている。状態が重度化した場合、その都度その都度主治医・家族・管理者、職員で話し合っ方針を決め、支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>時期が来れば関係者で話し合いながら、できる限りのことをしたいと考えており、利用開始時に本人及び家族等には説明している。協力医療機関が近く、医師も駆けつけてくれるが、重度化及び終末期への対応は医療行為が必要となる直前までとしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルの作成や勉強会を行っている。また消防署の協力を得て、応急手当の訓練など定期的に行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災時の避難訓練は消防署に指導していただき毎年実施している。その他、施設だけで訓練することもある。ただ、自然災害時の訓練はほとんどできていない。運営推進会議でも訓練や避難について相談するが、地域が高齢化していることもあって具体的にはなっていない。 (外部評価) 訓練は年2回以上行い、夜間を想定しての訓練も行っているが、近所や地域の方も参加しての訓練までは行っていない。運営推進会議でも災害については議題に上がるが、ホームのある地域全体が高齢化していることもあり、実際的な協力体制は築かれていない。	今後も運営推進会議や地域との関わりの中で災害対策についての意見交換を行い、相互関係の中からできることを見い出す取り組みが望まれる。また、訓練に地域の方も参加できるような工夫も期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日々の介護の中で、利用者への声掛けの内容や声の大きさやトーンが、その方の人格を傷つけていないか常に反省や点検をしている。職員同士これでいいのか、お互いに注意しあっている。 (外部評価) 年度初めに研修を行い、意識付けを行っている。声かけ時の言葉遣いや声のトーンについても職員間で注意し合っている。一人ひとりの生活リズムを尊重し、さりげなく見守りを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の仕草や表情から、本当の気持ちはどうであるのか探るようにしている。またいろいろな場面で利用者本人が決めるよう支援したいと思っているが、十分できているとは言えない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日の体調により、できることとできないことがあるので、一人ひとりのペースを大切に、自由に気ままに過ごしていただいている。何事も無理強いはしない。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 更衣に関しては殆どの方が全介助である。家族が持ってこられた衣類の中から本人さんの好きそうな物を職員が選んでいる。外出時は、少しいい物を着ていただくようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食材の下ごしらえは利用者がしてくれている。また、食器洗いやお盆ふきが丁寧な方もいて、それぞれに役割を持っている。利用者の好き嫌いを職員がよく知っておりそれを献立に活かしている。 (外部評価) 下ごしらえや後片付け等、できることを職員と一緒にやっている。行事には職員のアイデアでお弁当を作ったり、ホームの庭でカレーを食べるなど、趣向を凝らしている。誕生日にはリクエストを聞き、希望の多い寿司・味付けご飯・おはぎ等を献立に取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 職員は食事量や栄養、水分摂取に関して必要な知識は持っている。食事の度に食事量や水分摂取量を記録し、全員がそれを把握している。多すぎず、少なすぎず必要量は一日かけて摂取していただくよう心がけている。必要量摂取できない場合は栄養補助食品を摂取していただくこともある。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の口腔ケア、義歯の洗浄は自分でできる方以外は全て職員が行っている。夜間は義歯を洗浄している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を使用し、一人ひとりの排泄パターンを理解し、トイレ誘導している。	
			(外部評価) 排泄チェック表を活用してパターンを把握し、声かけやトイレ誘導を行っている。夜間は紙パンツを使用する方も、昼間は布パンツで過ごせるよう支援している。小声でさりげなくトイレ誘導するよう心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘について研修し、その及ぼす影響も職員は理解している。食物繊維の多い野菜を食べたり、運動したり、水分摂取をしたりと気を付けている。そのようにしても便秘の場合、薬に頼ることもある。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 勤務の都合上、午後からの入浴になっているが、体調に合わせて早くなったり、遅い時間になったりする。入浴は利用者と職員が1対1になる貴重な時間であり、本音を聞き出せる大切な時間でもある。	
			(外部評価) 毎日の入浴が可能で、気の合う利用者同士が一緒に入ることもある。浴槽に入れない方はシャワー浴で対応したり、足湯をするなど工夫している。気の進まない方には無理強いをせず、時間や日を改めて声をかける等、臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の希望や体調に合わせて仮眠をとられたり、休息されたりしている。日中の運動量にも気を付け、熟睡できるような手だてをとっている。また、安眠できるよう室温、換気、採光等にも気を付けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) お薬表をファイルし、一人ひとりの薬について理解している。薬が減ったり、追加されたりあるいは変更があったりしたときは、申し送りノートに記入し、しばらくの間様子観察を怠りなくするよう気を付けている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴や趣味を知り、できることを見つけ支援している。また季節に応じた行事を取り入れ、単調な生活の中に変化を求めるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気がよければ気分転換に屋外に出るように努めている。車での外出は危険が伴うのできちんとした計画を立てて行っている。本人が行ってみたい生まれ故郷は家族に相談し、家族と共に外出してもらっている。	
			(外部評価) 天気の良い日は毎日ホームの庭にイスを出して座り、体操や日向ぼっこ、おしゃべり等を楽しんでいる。散歩、スーパーへの買い物、近隣の畑の収穫、地域の方の庭の鑑賞等、外出の機会が多い。花見等で遠出する時は職員が下見し、トイレや安全面等を確認して入念な計画を立てている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分でお財布を持ち金銭管理のできる方は極わずかである。移動パン屋さんが来たときは、自分でパンを選び代金の支払いをするよう援助している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	(自己評価) 電話は本人がかけたいときにいつでも事務室からかけられるように支援している。家族から絵手紙が届く利用者には手紙が書けるよう字を書く練習を促している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の空間は整理整頓と清潔を心がけ、ゆったりくつろげる場としている。また、リビングの壁のディスプレイは季節感が感じられる物にしてあり見て楽しめるものである。	
			(外部評価) ホーム内は掃除が行き届いて清潔である。廊下には幾つものソファが置かれ、自由に好きな場所で過ごせるようになっている。居間の壁には利用者の作品や行事の写真飾り、家庭的なテーブルやイス、見やすい時計があり、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下やリビングにはソファを配置し、気のあった者同士が思い思いに過ごせるよう配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には、自宅で使い慣れた物を持ってきていただいている。ダンスや鏡台。ラジオや時計など実に様々であるが本人の思い入れのある物ばかりである。	
			(外部評価) 換気・布団干し・掃除が行き届いており清潔である。ベット・カーテン・エアコンは備え付けてあるが、馴染みのダンス・衣装ケース・イス・大事な仏壇等を持ち込み、季節の花を飾るなど、それぞれに個性があり、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレや浴室の場所を示す表示や、居室に表札を掛けるなど利用者が理解できるように配慮している。屋内は段差が無く、手すりを設置するなど安全面に気を配り、利用者が自立した生活が送れるよう環境を整えている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870600719
法人名	株式会社 ジェイコム
事業所名	グループホーム まなべ
所在地	西条市氷見乙769番地
自己評価作成日	平成21年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 1 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・下肢筋力の低下を防ぐことができるような取り組みを毎日行っている。
 ・天気のよい日には屋外へ出て散歩をしたり、椅子に腰掛けおしゃべりしたりと、外での活動に重点を置いている。
 ・梅やさくら、ふじ、ぼたん、つつじ、あじさい、菊などの花を見物に車で外出している。また、ブドウ狩りや柿狩りにも出かけている。
 ・庭の花壇に花を植えたり、野菜作りに精出している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者に毎日フットケア(足浴・マッサージ)を行い、その後天気の良い日は毎日のようにホームの庭にイスを出して日向ぼっこ、体操、おしゃべり等を楽しめるよう支援している。このような積み重ねが利用者の健康状態に良い効果をもたらし、風邪をひく利用者もほとんどいない。ホーム内はどこも掃除が行き届いていて清潔である。管理者は、職員の自主的な取り組みや業務に対する姿勢を高く評価している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム まなべ

(ユニット名) 2階 フロアー

記入者(管理者)
氏名 中原 千加子

評価完了日 平成21年12月15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念を2階フロアーの目に付く場所に掲示し、常に意識できるようにしている。また、名札の裏にも書かれており常に読むことができるようにしてある。難しい理念の為、理念を具体化した目標を職員間で話し合っ て決め、利用者様に書いていただいて貼っている。目標を守れるよう努力している。</p> <p>(外部評価) 理念を基に、ユニット毎で更にケアに結びつけやすい具体的な目標（例えば「見守り強化」等）を職員皆で話し合っ て決めている。2～3か月ごとに見直しを行い、次の目標を立てている。理念や目標は名札の裏や目につく場所に掲げて共有している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の方々とはよい関係が築けるよう、出会ったときは必ずこちらから挨拶をしている。散歩の途中で花や野菜、果物をいただいたりもする。また、ボランティアで体操を教えに来てくれたり、自治会長が畑の先生として野菜の作り方を指導してくれたりする。職員は自治会の清掃活動に参加している。</p> <p>(外部評価) 地域の方とは日常的に挨拶を交わし、またボランティアで体操や畑作りを教えてもらったり、時には野菜や花等を差し入れてもらっている。地域の秋祭りに参加したり、自治会の草引きに職員が出向いたり、中学生の研修を受け入れたり、小学校の廃品回収に協力するなど、地域との交流を深めるよう熱心に取り組んでいる。以前隣家が火災に遭った時に炊き出しを行ったこともある。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) まだまだ利用者様の事が精一杯で、何かを地域の方々にお返しすると言うところまでいっていない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 定期的に運営推進会議を開催し、ホーム内のことは全 て明らかにしている。行方不明の方の捜索にも近所 の方が力を貸して下さったり、行方不明捜索マニュアル の作成にもアドバイスをいただいた。	
			(外部評価) 利用者、職員の活動内容や状況、自己及び外部評価の 説明等、オープンな形でわかりやすく報告している。 活発な意見交換があり、行方不明者捜索マニュアルの 作成においては、会議でのアドバイスを取り入れている。 自治会長の声かけもあり、地域から様々な立場の 方が参加してくれている。議事録は家族にも届けてい る。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 行政の担当者や包括支援センターに相談するような問 題はなかったが、運営推進会議に参加していただき、 ホームの現状を報告している。また、市からのアン ケートや調査には協力し、できる限り意志疎通を図ろ うと努力している。	
			(外部評価) 市の担当者は運営推進会議に参加し、また近くに来た からと立ち寄っては様子を見てくれている。ホームか ら連絡して相談したり情報を得るなど、協力関係を 築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 朝会やカンファレンス時に身体拘束の弊害について話 し合い、身体拘束をしない介護に取り組んでいる。転 倒の恐れなど危険はあるが、見守りを強化すること で、危険性を減らすよう意思統一している。玄関も非 常階段に通じるドアも日中は鍵を掛けず開いている。	
			(外部評価) 毎年度初めには拘束・尊厳・倫理等について研修を行 い、心身のダメージや社会的に認められないこと等を 再認識している。毎月の勉強会の中でも「これは拘束 にならないか、どのようにすれば良いか」といった内 容を話し合い、問題意識を持って取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 会社全体で高齢者虐待防止関連法を学び、高齢者虐待防止について意識するようになった。介護はストレスを感じる仕事ではあるが、チームで介護し、職員同士お互いを思いやるようにし、気持ちのゆとりを持って介護に当たるようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する制度はほとんど理解できていない。研修の機会があっても参加ができていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約締結時はもちろんのこと、利用料金改定や介護報酬の改定、加算等をいただく場合は説明会を開催し、十分な説明を行い、ご理解をいただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者様の様子が分かるよう日常生活報告書やホーム便りを家族には送っている。それらを判断材料にいただき、来所時には意見や要望を聞くようにしている。また家族アンケートをとり、希望をケアプランに反映させている。 (外部評価) 利用者に常に寄り添い、会話・表情・動作などから読み取っている。家族の思いは訪問時の会話の中から汲み取り、また毎月のホーム便り、運営推進会議録、アンケート等の反応からも把握して、運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者はユニット会や全体会等で、職員の提案や意見を聞くようにしている。また、管理者側から職員に対して提案し、意見を聞くこともある。	
			(外部評価) 毎月のユニット会で、利用者の状況に合わせたケアや業務に関する意見や提案を話し合っている。代表者や管理者はその意見等を検討して運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 平成21年度、職員が意欲を持って働けるように、給与体系の見直しがされた。その結果、全員が資格取得や研修等に積極的に取り組む姿勢がみられるようになった。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員研修は経験や習熟度に応じて計画的にされている。そこで学んだことは研修報告会を催し発表してもらい全員が理解するようにしている。また、ユニット会や全体会をするとき、テーマを決め毎回学習するようにしている。現場においては先輩職員が新人職員に介護技術や知識を教えている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム協会が開催する相互研修や勉強会に参加し、学んだことは、ユニット会や全体会で報告し、よいところを取りいれている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用が決まれば、家族に不安や困っていること施設に望むことなどを詳しく聞き、ホームの考え方も伝えて安心していただけるよう努めている。また、本人の情報をできるだけ沢山集め、本人の事を理解しよい関係が築けるよう努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス開始が決まれば、家族にはホッとする気持ちと不安など複雑な気持ちがよぎると思われる。今までの苦労やつらさ、あるいは他人に介護を任せる不安など諸々の気持ちを受け止められるよう努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族・本人にとって何が必要か見極め、その方にあったサービスを探し、対応するようにしている。機能訓練が必要な利用者様には訪問リハビリが受けられるよう支援するなどしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の得意分野で力を発揮してもらい、共に生活する者同士、お互い助けられたり助けたりの関係を築いている。また職員は利用者の言葉にならない思いをできる限り理解し喜怒哀楽を共有しようと努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員は家族を、利用者を共に介護する同士と考えているので、困ったときは家族に相談に乗ってもらい知恵や力を借っている。疎遠になりがちな家族には本人の気持ちの代弁して伝えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 殆どの利用者が入居時には高齢であったり、体が不自由であったりするので、その時点で馴染みの場所や人との関係は薄くなっている。たまに知人が尋ねてきても顔さえ忘れていた状態である。一人一人の馴染みの人の所や場所に出かけていく支援はできていない。 (外部評価) 近所に住んでいた友人の訪問があったり、通りがかりに声を掛けてくれる方もいる。孫が成人式の晴れ着姿で訪ねてくれたり、家族と墓参り・葬式・法事等が出かけることもある。秋祭りには利用者の馴染みのだんじりがホームに来て、共に楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) それぞれ個性が強い利用者の集団であるので、職員が調整役に務め利用者間がうまくいくよう支援している。また、利用者間でトラブルが発生した時、他の利用者が仲裁役を務めてくれることもある。一人が孤立しないよう、一日一回はみんなでレクを楽しむようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他の介護施設に住み替えをされた方がいるが、住み替え時は全ての情報を詳しく伝えた。また、協力医療機関に入院し、退去された方の所へは、おみまいにしばしば出かけている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常会話の中から、一人ひとりの思いや意向をそれとなく観察し、ケース会や申し送りなどで話し合っている。どの方も食べるのが好きなので希望は献立に取り入れるようにしている。 (外部評価) 日々の関わりの中で寄り添って話を聞くよう心がけ、会話・表情・動作の中から利用者の思いを見極めるよう努めている。中でも入浴時は対一のケアになるためゆっくりと会話できる貴重な時間となっており、気づくことも多い。気づいたことや把握した情報は職員全員で話し合い、共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者・家族の歴史や情報は、失礼にならないよう気を付けながら聞き、フェイスシートを作成している。そうして得た情報は全ての職員が把握し、介護支援に役立てている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎朝・夕、申し送りで一人ひとりの状態把握に努めている。利用者はできないだろうと決めつけるのではなく、していただくよう働きかけ、職員が今まで気付かなかった新しい能力の発見に努めるよう努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月のニット会で利用者の状態とケアの仕方について話し合っている。また、定期的にあるいは状態変化に合わせてモニタリングを行い介護計画を作成している。家族には介護計画を説明し、意見を聞くようにしている。 (外部評価) 毎月のケア会議で気づきや意見を職員全員で出し合っ て介護計画を作成している。ふりかえりは毎月行い、 利用者の状況に変化がなくても3か月ごとに計画の見 直しを行っている。状態に変化があったり必要時には その都度見直している。介護計画と毎日のケアや個人 記録に関連性を持たせる工夫がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 記録をしていないのは何もしていないのと同じ事という認識で毎日の記録をしている。情報は申し送り時に話し合ったり、申し送りノートに記入するなどして全職員が共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 遠方の家族に代わって定期的に病院受診が必要な利用者に通院介助を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 行政はもとより、消防や自治会は強力な応援団である。また、地域にレクをしてくれるボランティアの方がおり、気軽に訪問してくれている。移動図書館はホームの駐車場が巡回コースに入っているのも新しい本を借りることができる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 殆どの家族・本人が事業所の協力医療機関の医師をか かりつけ医としている。が、特別な疾患を持っている 方はその疾患のみのかかりつけ医も持っており、家族 が受診介助を行っている。協力医療機関にない診療科 目は家族と相談し、職員が受診介助している。 (外部評価) ほとんどの利用者が協力医療機関の医師をかかりつけ 医としている。月1回の往診があり、協力医療機関の 受診は職員が対応している。専門医の受診は家族が付 き添っているが、状況に応じて職員が同行すること もある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 常勤の看護師が配置されており、介護職員は常日頃か ら報告、連絡、相談を行い、状態変化を見落とさない よう気を付けている。また、看護職員は介護職員に看 護の知識や技術、利用者の病気や気を付けなければなら ない点などを伝えている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は主治医を始め病棟看護師や栄養士、薬局等に 情報提供をしている。入院中は職員が見舞うようにし ている。また、入院によるダメージを少しでも軽くで きるよう、早期の退院にむけて家族や主治医、看護師 等と話し合いの機会を持つようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合の対応については、事業所で見てほし いという希望が多い。実際に重度化した場合は家族、 主治医、管理者・職員等で話し合い、どのような支援 ができるか決めている。 (外部評価) 時期が来れば関係者で話し合いながら、できる限りの ことをしたいと考えており、利用開始時に本人及び家 族等には説明している。協力医療機関が近く、医師も 駆けつけてくれるが、重度化及び終末期への対応は医 療行為が必要となる直前までとしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時にそなえ学習会を開催し、知識と技術を身につけている。急変時の対応は常日頃より繰り返し学習している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災については消防署の協力を得て、定期的に訓練している。地震や水害等の自然災害に関してはまだまだ訓練が不足している。運営推進会議でも災害対策についてはよく議題に上がるが、地域も高齢化し、難しい所がある。 (外部評価) 訓練は年2回以上行い、夜間を想定しての訓練も行っているが、近所や地域の方も参加しての訓練までは行っていない。運営推進会議でも災害については議題に上がるが、ホームのある地域全体が高齢化していることもあり、実際的な協力体制は築かれていない。	今後も運営推進会議や地域との関わりの中で災害対策についての意見交換を行い、相互関係の中からできることを見出す取り組みが望まれる。また、訓練に地域の方も参加できるような工夫も期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日常、利用者の誇りを傷つけないようなこえかけや言葉遣いに気を付けている。自分がされて嫌なことはしないよう気を付けているが、いつもできるわけではない。利用者の人権や尊厳を護ることを意識するよう努めている。 (外部評価) 年度初めに研修を行い、意識付けを行っている。声かけ時の言葉遣いや声のトーンについても職員間で注意し合っている。一人ひとりの生活リズムを尊重し、さりげなく見守りを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 意思表示できる方の思いは職員にわかりやすく、その通りに物事をすすめるが、意志表示のできない方の思いは職員が表情を読みとりながら決めることがある。できる限り選択肢を用意し、自分で決められるようなこえかけを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望に合わせて気ままに過ごしてほしいという気持ちもあるが、一日のおおよそのスケジュールが決まっている。そのスケジュールに参加する。しなは利用者が決めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時の更衣は利用者の好みにまかせているが、季節に合わないようであれば、アドバイスをし選び直してもらっている。外出時は洋服選びに時間をかけ、楽しんでいる。また、毎日ほお紅をつける方もいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食材の下ごしらえはいつも手伝ってくれている。片付けもお膳を下げたり、食器を洗ってくれるなどしている。献立は好みの物を取り入れるようにしている。誕生日会はリクエストメニューである。 (外部評価) 下ごしらえや後片付け等、できることを職員と一緒にやっている。行事には職員のアイデアでお弁当を作ったり、ホームの庭でカレーを食べるなど、趣向を凝らしている。誕生日にはリクエストを聞き、希望の多い寿司・味付けご飯・おはぎ等を献立に取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分摂取量のチェックを行い、必要量摂取できるよう支援している。刻み食やミキサー食、飲み物にとろみを付けるなど一人ひとりの状態に合わせた食事を提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアは、自分でできる方は一人で行い、こえかけが必要な方には声掛けで行ってもらい、全く自分でできない方は職員が介助して行っている。歯や歯茎の異常には速やかに対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。夜間紙パンツを使用している利用者には日中は布パンツを使用し、排泄の自覚を促している。また、排泄困難な利用者にもトイレに座ってもらい、排泄の習慣が付くように支援している。	
			(外部評価) 排泄チェック表を活用してパターンを把握し、声かけやトイレ誘導を行っている。夜間は紙パンツを使用する方も、昼間は布パンツで過ごせるよう支援している。小声でさりげなくトイレ誘導するよう心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便に関しては特に注意深く観察している。十分な水分補給に心がけ、食物繊維の多い食材を使うなど献立の工夫もしている。また、外に出たり、廊下を歩いたり、レクリエーションをするなど体を動かすように心がけている。センナ茶や下剤を服用することもある。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人ひとり入浴したいときに入浴の支援ができればよいのだが、職員の業務の都合で毎日午後からの入浴になっている。体調や身体機能に合わせた入浴を毎日支援している。	
			(外部評価) 毎日の入浴が可能で、気の合う利用者同士が一緒に入ることもある。浴槽に入れたい方はシャワー浴で対応したり、足湯をするなど工夫している。気の進まない方には無理強いをせず、時間や日を改めて声をかける等、臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) それぞれの生活習慣に合わせ、朝の起床や夜間の入床は様々である。日中横になりたい方は自室で自由に過ごしているし、血圧等バイタルサインに異常が認められる場合は休息をとってもらったりしている。室温、換気、採光など心地よく眠られるように気を配っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は利用者がどのような薬を飲んでいるか理解している。また薬の中止や変更があった場合は特に様子観察を怠りなくしている。薬については薬剤師を講師に招き研修したり、相談したりしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの能力や若い頃の職業、趣味、楽しみなどの情報を集め、生き活きとした生活ができるよう支援している。家事ができる方には家事を、歌が好きの方には歌を、字が得意な方には字を書いてもらうなどしている。また外に出たり、レクを楽しんだり気分転換が図れるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気のよい日はできる限り屋外に出て、季節感を味わうようにしている。近くの御旅所まで出かけたたり、近回り・中周り・遠回りコースなどと散歩コースを設けて体調や気分に合わせ行っている。またお花見物や果物狩りなど車での外出も行っている。家族と一緒に食事や買い物に出かける方もいる。	
			(外部評価) 天気のよい日は毎日ホームの庭にイスを出して座り、体操や日向ぼっこ、おしゃべり等を楽しんでいる。散歩、スーパーへの買い物、近隣の畑の収穫、地域の方の庭の鑑賞等、外出の機会が多い。花見等で遠出する時は職員が下見し、トイレや安全面等を確認して入念な計画を立てている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 入居前に自分でお金を管理したり、商品を買って自分で支払いをしていた方は殆どいない。家族が管理し支払いをしていた。現在、利用者は、お金の価値や物の値段がどの程度するかほとんど解らない。移動パン屋さんが来ても商品を選び、代金を払うことができるのは数人の方である。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 職員の励ましがあれば、何人かの利用者が暑中見舞いや年賀状を書く事ができる。電話は家族から誕生日にかけてくることがある。利用者の希望があれば電話はいつでもかけられる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共有スペースは、いつも清掃し、清潔に気を付けている。室温や換気、採光や音量、臭いなどにも気を配り居心地よく過ごせるよう努めている。壁には季節感が感じられるものを張ったり、季節のお花を活けたりしている。</p> <p>(外部評価) ホーム内は掃除が行き届いて清潔である。廊下には幾つものソファが置かれ、自由に好きな場所で過ごせるようになっている。居間の壁には利用者の作品や行事の写真飾り、家庭的なテーブルやイス、見やすい時計があり、居心地良く過ごせるよう工夫している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングや廊下の端にソファを配置し、一人で過ごしたり、何人かで過ごしたりできるように配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室は利用者の城であるので、自由に好きなように使っている。自宅で使っていたタンスや椅子を持ってきたり、仏壇を持ち込んでいる方もいる。また、壁には自分で色塗りをしたカレンダーや写真などを飾っている。利用者の個室は各人それぞれ個性豊かである。</p> <p>(外部評価) 換気・布団干し・掃除が行き届いており清潔である。ベット・カーテン・エアコンは備え付けてあるが、馴染みのタンス・衣装ケース・イス・大事な仏壇等を持ち込み、季節の花を飾るなど、それぞれに個性があり、居心地良く過ごせる工夫をしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 居室、トイレ、浴室など場所の表示をし、一人でも行けるよう配慮している。また、床は段差が無く、手すりを設置するなど自立した安全な生活が送れるよう環境を整えている。</p>	